

平成20年の所管事務調査が終了

秋田県羽後町でまちづくりの学ぶ



議会には、総務、教育民生、産業建設の3常任委員会があり、毎年町の事務・調査（所管事務調査）を実施し提言活動を行っています。このほど平成20年の調査が終了しましたので、ここでは先進地に向いている町外調査の概要についてお伝えします。



福祉複合施設の高瀬ケアセンター（秋田県羽後町）

総務常任委員会（道又秀悦委員長ほか3人）、教育民生常任委員会（木下志生子委員長ほか4人）、産業建設常任委員会（三ヶ尻隆雄副委員長ほか4人）は、11月13日と14日に秋田県羽後町を訪ね、まちづくりについて学びました。

羽後町は、人口1万8千人、一般会計の予算規模はおよそ69億円、総面積230・75km²のうち森林66%、農用地20%で豊かな穀倉地帯となっています。

「人が輝き、人が活きるまちづくり」を目標に、教育、文化、福祉、医療、生活環境、産業などの充実に努めています。

総務

自立(律)のまちづくりについて調査

総務常任委員会は「行政改革の推進」と「健全な財政運営」について調査を行いました。

「行政改革の推進」について羽後町は、町内6地域にあつた支所を廃止し、各種証明書の交付や税金などの収納業務については、郵便局へ委託しているとのことでした。

した。

「健全な財政運営」について

本町と羽後町を平成18年度の一般会計の決算で比較すると、財政力指数が山田町0・28に対し、羽後町は0・27。地方債残高は101億6849万円に対し、82億8582万円。公営企業などへの繰出合計は8億

2987万円に対し、10億568万円で、町立羽後病院に2億円の繰出しが含まれています。本町との大きな違いは、山間部であり冬期間の積雪による除雪費が年間約1億5千万円ほどあり、雪国ならではの苦勞であるとのことでした。

自立したまちづくりを推進するため、行政改革大綱を推進し、健全な財政運営をしていると感じました。

教育民生

介護保険の現状と課題を調査

教育民生常任委員会は、「介護保険の現状と課題」をテーマに調査を行いました。

羽後町は、65歳以上の高齢者が5584人で、高齢化率約31%。今後さらに高齢化が進むものと推測されています。

今回視察した高瀬ケアセンターは、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、居宅介護支援、生活支援ハウス（60歳以上の一人

暮らし世帯、60歳以上の夫婦のみの世帯で高齢などのため自宅で生活することに不安のある方が利用できるもの）の各事業を行うほか、給食サービスステーション、地域交流スペース、町立羽後病院の自動受付機を備える多機能な福祉複合施設です。地域交流スペースと病院の自動受付機は、入所者以外の地域の方たちにも広く利用されているということです。

人口、予算規模は本町と